

# 課題名：新規就農者の育成をバネにソリダゴの産地復活を支援

所 属 名：鹿児島地域振興局農政普及課  
 発表者名：郡山啓作

## <活動事例の要旨>

日置地区のソリダゴ産地では、産地形成の初期を牽引した生産者の引退により、生産量・生産額の縮小が危惧されていた。そのため、産地の担い手確保に向け平成20年前後より、関係機関が連携して、日置市農業公社研修生の就農支援や、他品目からの転換を支援した。

また、生理障害対策や省力化等の技術向上支援により、個別生産者の所得確保につなげ、産地としても世代交代を実現し、出荷数量・面積の回復につながりつつある。

## 1 活動の課題・目標と策定過程

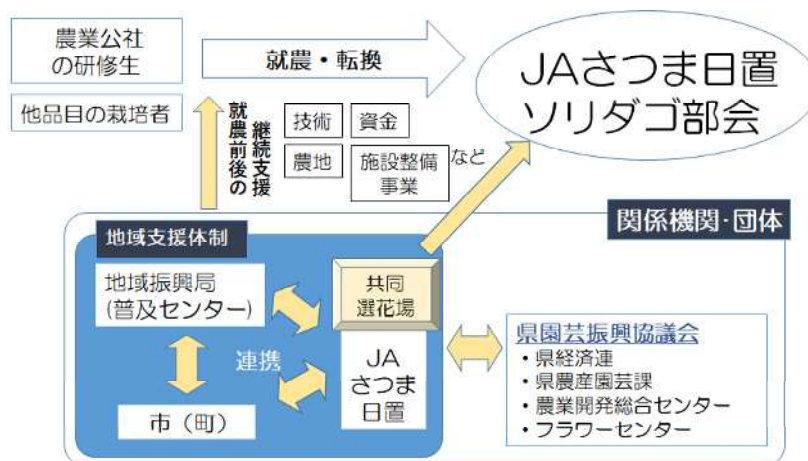
課 題	目 標	設定理由	計画策定
・生産者数の確保 (H16:22名から 最末期H29:10名) ・栽培面積の拡大 (H20:396aから 最末期H28~30:170a)	新規の栽培者の育成・確保	産地形成期を牽引した生産者の高齢化と後継者の不在	・JA、市、普及が連携した農業公社研修生や新規栽培者への技術・農地・資金等支援 ・新規栽培者掘り起こし ・個別の栽培計画作成支援
・生産性の向上 (H20~29の平均単収 64千本/1,000㎡と低い)	単収の向上 ⇒単収目標の達成 ①新規の栽培者は まず50千本/1,000㎡ ②次に85千本/1,000㎡  ※新規栽培者はH30以降の栽培歴5年以内の者	単収の現状と、市基本構想における所得水準を基に、生産者・関係機関間で協議	・単収を下げる要因の実態把握(株枯れ・芯つぶれ等)  ・生産性向上支援(植え替え推進、日中換気や加温技術、病害虫防除、土壌改良や施肥改善など)

## 2 普及指導活動の内容

### (1) 活動の経過

活動内容	年 度							
	~H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2~
<b>新規の栽培者の育成・確保</b>								
関係機関サポートチームによる新規の栽培者の掘り起こしと定着化	新規就農相談会等での推進、技術習得、農地確保、規模拡大支援							
個別の栽培計画作成支援	出荷実績の分析、個別ヒアリング							
【調査研究等】				・単収向上阻害要因解析				・新規栽培者支援の手法の検討
<b>単収の向上</b>								
栽培実態の把握	株枯れ・芯つぶれ症状の発生の実態と原因把握							
株枯れ・芯つぶれ対策	【株枯れ対策】株管理改善、植替え推進			【芯つぶれ対策】水分管理、石灰資材施用				
【調査研究等】	・株枯れ・芯つぶれ症状の発生実態と原因 ・株枯れ防止(土壌改良)	・冬期の生産性向上(初期生育促進)		・単収向上阻害要因解析		・冬期の生産性向上(施肥改善)	・かん水省力化及び環境モニタリング結果に基づく制御技術検	

(2) 指導・支援の体制



3 普及指導活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因

課題および目標	達成状況 (R2)	その要因
<p>&lt;課題&gt; 生産者数の確保による栽培面積の拡大 ↓ &lt;目標&gt; 新規の栽培者の育成・確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規栽培者数の増加 ⇒H29年以降は4名増 (内3名が他品目からの品目転換)</li> <li>部会栽培農家12名中10名(全体の83%)が、H19以降の公社修了及び品目転換による新規の栽培者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①農業公社修了生を含む新規の栽培者への技術・農地・資金等を支援(普及は技術と資金を担当)</li> <li>②現地検討会で先輩生産者が新規の栽培者へ直接助言できる体制を構築</li> <li>③他品目栽培者へソリダゴ栽培メリットを説明</li> <li>④情報の共有体制を整備(googleドライブ)</li> </ul>
<p>&lt;課題&gt;生産性の向上 ↓ &lt;目標&gt;単収の向上 ・新規の栽培者は まず50千本/1,000㎡ ・次に85千本/1,000㎡</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規の栽培者全員が達成(対象者4名)</li> <li>それ以外の部会栽培農家達成3名(平均92千本) 未達5名(平均60千本) 上記8名平均72千本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①減収の要因分析と実証を活用した普及活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.株枯れや芯つぶれ対策として植え替え, 施肥管理改善等を推進</li> <li>b.病虫害防除やハウス内環境の適期管理</li> </ul> </li> <li>②個別の栽培計画作成支援</li> </ul>

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

ア 定期的な現地検討会の実施により、先輩が新規栽培者へ助言し、皆で新規栽培者を育てる機会が定着したことで、より産地が一体化し、産地復活に寄与したとの評価がある。

イ 生理障害対策と省力・低コスト化の取組に対して高い関心があり、可能な範囲で自身の経営に取り入れるなど、普及からの情報提供に期待を持っている。

(3) 地域農業振興への貢献

ア 新規就農者の育成・確保・定着と、将来的な地域の担い手確保につながってきている。

イ 経験を積んだ生産者の農業研修生等の受入など、地域を越えて農業振興に寄与してきている。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 今後の課題

高単収・高所得生産者の要因分析と分析結果の波及

(2) 今後の活用に向けて

環境モニタリング等による加温・かん水管理など栽培管理の指標化促進や、聞き取り等によるほ場作付及び種苗確保方法の実態把握を行う。これらを情報共有し、低単収生産者の生産性改善と、産地全体の高位平準化につなげる。